

# 鳥栖市ゼロカーボンシティ宣言

鳥栖市は北に九千部山の雄大な山並み、南に悠然と流れる筑後川、その間に市街地のあるなだらかな丘陵地帯と田園地帯が広がる都市です。

鳥栖市は先人の礎のもと、豊かな自然と地の利をいかしたまちづくりを進めてきました。

近年、度重なる集中豪雨が全国各地に甚大な被害をもたらす中、本市においても住宅等の浸水被害や道路の冠水が発生し、市民生活をはじめ、農業や経済活動など様々な面に影響を及ぼしています。

気候変動などによる災害や環境問題への迅速な対応が地方自治体に求められる今日、自然環境と共生するライフスタイルを将来の世代へ引き継ぐため、今、私たちには将来に向けた責任ある行動が求められています。

私たちは、自然と環境の調和のとれたこのまちが大好きです。先人から引き継いだこのまちを、今を預かる我々みんなと一緒に手を携えて、この先もずっと素晴らしい鳥栖を守っていききたい。そして、後世に引き継いでいききたいと思っています。

鳥栖市は、ここに2050年度までに二酸化炭素の排出量と吸収量を均衡させ二酸化炭素排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティ宣言を宣明し、行政だけでなく、市民、事業者等が連携した脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

令和5年12月21日

鳥栖市長 向門 慶人

# 第3次環境基本計画に基づく宣言等について

## ○パリ協定

2016年11月に発効されました「パリ協定」に内容抜粋

- ・世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2度より十分低く保ち、1.5度以内に抑える努力をする
- ・できるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と(森林などによる)吸収量のバランスをとる
- ・京都議定書の後継にあたる2020年以降の気候変動問題に関する枠組み
- ・すべての締結国を対象に目標の策定・提出が義務づけ等が掲げられた。

## ○日本のパリ協定以降の削減目標

・2020年3月、「2030年度に2013年度比マイナス26.0% (2005年度比マイナス25.4%)の水準にする削減目標を確実に達成することを目指す。また、この水準にとどまることなく、中期・長期の両面で温室効果ガスの更なる削減努力を追求していく」とのパリ協定目標とされました。

・2021年4月、「2050年カーボンニュートラルと統合的で野心的な目標として、2030年度において、温室効果ガス46%削減(2013年度比)を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けていく。」ことを表明しました。

2021年10月、「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」が閣議決定し、国連へ提出しました。

# 第3次環境基本計画に基づく宣言等について

## ○令和4年4月より「第3次環境基本計画」計画期間開始

鳥栖市では、「第3次環境基本計画」を令和4年3月に策定しました。計画期間は令和4年度から令和13年度の10年間です。本計画に内包しております「第2次鳥栖市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」の温室効果ガスの削減目標として、排出量を2013年度比で2030年度に46%削減としています。また、長期目標として、2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指しています。

## ○令和5年12月 ゼロカーボンシティ宣言

「第2次鳥栖市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」に基づき、市民、事業者、行政が一体となって、2050年度に二酸化炭素排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティの実現をより加速化させるため、「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。

## ○令和6年1月 デコ活宣言

脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動を後押しし、実践する「デコ活(※1)宣言」をしました。



## 市民、事業者、行政が一体となりすすめる ゼロカーボンシティ実現のために

### ○【足元からの取り組み】

既存計画や取り組みについて、すぐできることから実行し、必要な見直しや最適化を検討する。

### ○【意識醸成を図る】

エシカル(※2)で持続可能な社会実現に向けた啓発や行動変容など、「第3次鳥栖市環境基本計画」実践の輪を広げるため情報発信をより強化し、行政、市民、事業者が一体となってこの計画の目的である「環境と共生するライフスタイルを、子どもたちへ引き継ぎます」の意識共有を進める。

令和6年1月より、「ウォームビズ」の具体的な運用についての実証を開始。

(「ウォームビズ」は、「デコ活アクション(※3)」・「第3次鳥栖市環境基本計画」の取り組みの一部。)

### ○鳥栖市では、今後以下の事業を検討中です。

- ・鳥栖市道路照明灯LED整備の検討
- ・代替可能な電動車がない場合等を除く共用の公用車について、EV車等導入の検討
- ・公共施設への太陽光発電設備の設置可能性調査等の検討

※1:「デコ活」とは、「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」です。

※2: エシカルとは、「倫理的な」・「道徳的な」の意味。

※3: 暮らしが豊かになり、脱炭素などに貢献していくものは、すべて「デコ活アクション」です。

～デコ活宣言～

# 鳥栖市は「デコ活」に取り組みます!

※2024.1.30現在、本市を含む820団体(企業・各種団体・自治体)が宣言

※右のデコ活ロゴは、一人一人の日常の取組が地球を変えるうねりになる「バタフライエフェクト」をイメージした、シンプルな蝶のデザインとなっています



## 「デコ活」とは

ゼロカーボンにつながる国民・消費者の行動変容、ライフスタイルの変革を強力に後押しする新しい国民運動で、二酸化炭素(CO2)を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と、環境に良いエコ(Eco)を含む“デコ”と活動・生活を組み合わせてつくられた新しい言葉です。

デコ活アクション まずはここから!

- デ** 電気も省エネ 断熱住宅
- コ** こだわる楽しさ エコグッズ
- カ** 感謝の心 食べ残しゼロ
- ツ** つながるオフィス テレワーク

- ・環境にやさしい次世代自動車を選ぶ
- ・太陽光発電など、再生可能エネルギーを取り入れる
- ・クールビズ・ウォームビズに取り組む
- ・できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動する
- ・ごみをできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用するなど

## 脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後

太陽光発電  
年5.3万円 DOWN  
災害時にも使える

高効率給湯器  
年3.5万円 DOWN

住宅の断熱化  
(窓・屋根・壁・床)  
年9.4万円 DOWN  
ヒートショック防止

はかり売り・自動決済  
年3時間 UP  
好きなものを好きなだけ

LED照明  
年3千円 DOWN  
年0.4時間 UP

省エネ家電  
(冷蔵庫・エアコン・HEMS)  
年2.8万円 DOWN

テレワーク  
年6.1万円 DOWN  
年275時間 UP

クールビズ・ウォームビズ  
年4千円 DOWN

地産地消・食べきり  
年9千円 DOWN

節水  
(キッチン・洗濯機・シャワー・トイレ)  
年1.6万円 DOWN

サステナブルファッション

公共交通・自転車・徒歩  
年1.2万円 DOWN

次世代自動車  
年7.5万円 DOWN  
自動運転で年323時間 UP  
給油不要なら年2時間 UP

ごみの削減・分別  
年4千円 DOWN

毎月3万6千円浮きます(年43万円)

一日プラス1時間以上を好きなことに(年388時間)

凡例: トロフィーガイド  
機会がある方は みんなで

※出典: 環境省HP